

発掘調査の概要

藤原京左京二条三坊・三条三坊の調査（飛鳥藤原第173-1次）

本調査は水路改修の事前調査で、調査区は南北118mにわたり、東二坊大路と二条大路の推定位置にあたります。現代の水路による攪乱かくらんが著しかったものの、南北溝1条、土坑4基を確認しました。

今回見つけた南北溝は、埋土から古代の遺物が出土していることから、東二坊大路東側溝の可能性がありま。東西道路である二条大路については、北側溝推定位置は現代の水路で攪乱を受けていました。南側溝推定位置では、調査区西壁で観察が可能でしたが、東西溝は確認できませんでした。このことから、二条大路南側溝は、東二坊大路を横断しない可能性が高いといえます。

この他、4基の土坑は、出土遺物より古墳時代前期の遺構であることがわかりました。互いに離れた場所に位置し、狭長な調査区である等の制約がありましたが、当該期に調査区周辺で土地利用があったことがあきらかとなりました。

また、現代の水路は、正方位から多少振れているものの、ほぼ南北方向に直線的に流れており、条里の境にあたりま。このことから、東二坊大路東側溝を踏襲した南北溝が古代以降、近現代に至るまで、少し位置を変えながらも使用されていた可能性が認められます。（都城発掘調査部 木村 理恵）



調査区全景（北から）

藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第174次）

2012年4月から開始した藤原宮朝堂院朝庭の調査は、12月17日に埋め戻しを完了しました。調査面積は1,850㎡で、延べ8カ月にわたる調査でした。今次調査の成果をまとめると次のとおりです。

大規模な整地と建物群 2012年4月から6月にかけての調査では、調査区のほぼ全域で、藤原宮期の礫敷れきじきを検出しました。7月以降、調査区の南3分の1の範囲で礫敷を除去し、上層の整地層である第二次整地土を段階的に掘り下げたところ、掘立柱建物、柱列、溝、穴等を検出しました。掘立柱建物は調査区の西南部分で多く見つかり、昨年の第169次調査で検出した建物と近接しています。これらの建物群は、重複関係から建て替えがあったことがわかります。いずれも藤原宮の造営にかかわる仮設の建物群であったでしょう。

沼状遺構と木屑だまり 調査区の北辺付近では、これまでの発掘調査で確認してきている沼状遺構の範囲を探るべく、9月以降に断割調査たちわりをおこないました。その結果、沼状遺構は調査区の北辺付近に南端があり、これより北側に広がっていることがわかりました。また、調査区東北部では、礫敷面が楕円形に落ち込んでいる部分を確認し、その落ち込みの断割調査をおこなったところ、下層に多量の木屑が堆積していることが判明しました。木屑は整理箱で180箱におよび、宮造営時の木材加工で生じたものとみられます。今後は木屑の分析等を通じ、宮造営過程の実態解明に役立てたいと思います。

（都城発掘調査部 森川 実）



調査区全景（北東から）